https://wasedasports-sousupo.com/

早スポ

競泳インカレ号外

9月2日
令和8年
（2026年）
競泳インカレ号外

奮迅

誇り懸けて頂へ

《土橋俊介　撮影》
《土橋俊介　撮影》
《土橋俊介　撮影》
《金坂祥吾　撮影》

情熱を『紡』ぐ

早慶戦後の選手たち《水泳部提供》

大躍進‼の前回大会

《大村谷芳　撮影》
《金坂祥吾　撮影》

普段は個人競技として己との勝負にこだわる選手たちが、大学の伝統と誇りを胸に全力を尽くす大会がある。それが日本学生選手権（インカレ）だ。最終学年の多くの選手にとって現役最後の試合であり、最も熱気に満ちた大会となる。世界選手権経験者を筆頭に、個人種目、リレー種目共に実力者をそろえる早大。男子は総合6位、女子は初の総合優勝を目指し、チーム一丸となって戦う。

早稲田スポーツ新聞会
東京都新宿区戸山1－24－1
早稲田大学学生会館　早稲田スポーツ新聞会
郵便番号　162-0052
郵便口座　00110-7-171180
編集人　吉田　陽南子・土橋　俊介
印刷所　東日印刷

競泳
第102回日本学生選手権
（9月3～6日　大阪・東和薬品ＲＡＣＴＡＢドーム）

『紡（つむぐ）』。一人一人の努力や思いを丁寧につなぎ、積み重ねることで信頼、成長、誇りあるチームをかたちづくりたい。そのような思いから生まれた今年度のスローガン。『紡』の言葉を胸に、個々の秘める情熱を紡ぎ合わせ、早大の誇りを懸けて頂へ挑む。

誇りを胸に

インカレは、個人種目とリレー種目の結果がチームの総合得点に反映される、まさに大学の総合力が試される大会だ。その中で、今年度の早大競泳部門はチームの組織づくりにこだわってきた。チームの大きな目標を立てるだけではなく、一人一人が目標タイムを設定し、その達成に力を注ぐ。おのおのが目標に向けて成長を重ねることで、チーム力の強化につなげてきた。組織力が鍵となるインカレにおいては、この1年間で培ってきたチーム力が頂点への大きな武器となる。

初の景色へ

女子総合優勝に向けて重要な役割を担うのが、今年8月のパンパシフィック選手権と同9月のアジア大会の日本代表に選出された加藤心冨（スポ3＝埼玉・春日部共栄）と竹澤瑠珂（スポ2＝東京・武蔵野）だ。加藤は一昨年のインカレで100、200㍍平泳ぎ2冠を達成し鮮烈なデビューを果たすも、昨年は200㍍平泳ぎで競り負け、惜しくも2位となった。「日本代表や優勝経験者としてのプライドを持って戦いたい」と、今年のインカレでは王座奪還と個人種目2冠に燃えている。一方の竹澤は、昨年200㍍自由形で、ワールドユニバーシティゲームズで共に日本代表として戦った長尾佳音（当時明大4年）との接戦を制し見事優勝を飾った。世界の舞台を経験した選手たちが、今年も早大に大きな勢いをもたらすだろう。

さらに女子総合優勝の鍵を握るのが女子自由形陣だ。昨年のインカレでは、4×100㍍フリーリレーで20年ぶりの優勝、4×200㍍フリーリレーでは大会新記録樹立という華々しい結果を収めた。昨年の優勝メンバーのうち、200㍍自由形優勝の竹澤、400㍍自由形2位の松崎りん（人4＝東京・日大二）、800㍍自由形3位の青木虹光（スポ3＝群馬・明和県央）の3人が今大会も出場し、さらなる記録更新にも期待が高まる。個人種目の2倍の得点がチームに加算されるリレー種目で大量得点を獲得し、早大に流れを呼び込みたい。

いざ集大成

関東学生選手権（カンカレ）のレース後、「自分の水泳人生の集大成なので、とにかく悔いが残らないように頑張りたい」と語った山口遼大（スポ4＝東京・暁星）。インカレを現役最後の大会と位置づける山口だが、昨年は100㍍バタフライで4位に終わり、表彰台まであと一歩と悔しさが残った。一方、今年の日本選手権では100㍍バタフライで予選、B決勝ともに自己ベストを更新し、好調ぶりを発揮。「元々のベストが2年時のインカレで、そこから苦しい時期が長かった」と話し、苦難の末につかんだ自己ベスト更新に喜びをにじませた。競技生活の締めくくりとなる本大会では、持てる力を出し切るとともに、最終学年の柱としてチームを引っ張る。一人一人の情熱を紡ぎ合わせ、インカレの舞台をエンジに染め上げろ。

（金坂祥吾）

早稲田スポーツ

◆男子出場選手一覧◆

名前	出身校	種目	ベストタイム
新開誠也男子主将（スポ4）	鹿児島情報	100㍍バタフライ 200㍍バタフライ	51秒78 1分55秒97
飯田光達（スポ4）	八王子学園八王子	400㍍自由形 200㍍背泳ぎ	3分52秒41 1分58秒41
入江崇也（スポ4）	佐伯鶴城	200㍍バタフライ	1分58秒31
山口遼大（スポ4）	暁星	50㍍自由形 100㍍バタフライ	22秒54 52秒67
増田莉蔵（スポ3）	浜松市立	200㍍自由形	1分50秒86
松井理宇（スポ3）	日大豊山	50㍍自由形 100㍍自由形	22秒68 49秒56
松下湊（スポ3）	駒場	100㍍背泳ぎ	55秒72
村上稜芽（スポ3）	駒場	100㍍自由形 100㍍バタフライ	50秒63 53秒75
木村佳華（スポ2）	桃山学院	200㍍自由形 400㍍自由形	1分50秒04 3分54秒67
添田重樹（スポ2）	逗子開成	100㍍背泳ぎ 200㍍背泳ぎ	55秒60 2分03秒62
髙井直人（スポ2）	金沢	100㍍平泳ぎ	1分01秒34
髙橋俊太郎（スポ2）	仙台二	200㍍自由形	1分53秒07
塩田直也（スポ1）	淑徳巣鴨	50㍍自由形 100㍍背泳ぎ	22秒52 54秒47
竹田翔真（政経1）	洛南	200㍍個人メドレー 400㍍個人メドレー	2分04秒21 4分22秒64
原田拓弥（スポ1）	豊川	200㍍平泳ぎ 400㍍個人メドレー	2分12秒59 4分17秒59

◆女子出場選手一覧◆

名前	出身校	種目	ベストタイム
内田さくら女子主将（スポ4）	向陽	50㍍自由形 100㍍自由形	25秒55 55秒93
柴田菜摘（商4）	早実	50㍍自由形 100㍍背泳ぎ	26秒33 1分02秒59
髙橋実花（教4）	仙台二華	100㍍バタフライ 200㍍個人メドレー	1分02秒24 2分22秒78
二宮歌梨（教4）	早実	50㍍自由形 200㍍自由形	25秒81 2分00秒40
松﨑りん（人4）	日大二	400㍍自由形 800㍍自由形	4分09秒63 8分35秒54
青木虹光（スポ3）	明和県央	400㍍自由形 800㍍自由形	4分11秒98 8分36秒87
加藤心冨（スポ3）	春日部共栄	100㍍平泳ぎ 200㍍平泳ぎ	1分05秒65 2分24秒24
熊谷奈津季（スポ3）	戸山	100㍍平泳ぎ	1分13秒70
水野柚希（先理3）	栄東	200㍍背泳ぎ 200㍍個人メドレー	2分09秒17 2分16秒21
竹澤瑠珂（スポ2）	武蔵野	200㍍自由形 400㍍自由形	1分58秒33 4分09秒13
児玉海生（スポ1）	豊川	200㍍個人メドレー 400㍍個人メドレー	2分14秒00 4分42秒44
関根梨桜（スポ1）	高崎女	200㍍バタフライ	2分14秒76

レイアウト　土橋　俊介・早崎　静・吉田陽南子

3人でつかむ決勝切符

ポーズをとる3人（左から松下、塩田、添田）
〈早大水泳部提供〉

〇…「3人そろってインカレの決勝に残りたい」。カンカレ後にそう語った添田重樹（スポ2＝神奈川・逗子開成）。今年の短距離背泳ぎ陣は層が厚く、インカレでは全員が決勝進出を目指し、闘志を燃やしている。

上級生として3人を引っ張るのは松下湊（スポ3＝東京・駒場）だ。6月の日本選手権では50㍍背泳ぎで自己ベストを大幅に更新。「まだ強化段階でのタイムなので、夏に期待できる」と語り、インカレではさらなる飛躍に期待がかかる。一方の添田も、先日のカンカレ100㍍背泳ぎで自己ベストを更新。4月の早慶戦で左中手骨を骨折し、リハビリを経て臨んだ大会だったが、予選、決勝ともに好タイムを記録した。

ルーキー・塩田直也（スポ1＝東京・淑徳巣鴨）の活躍にも注目だ。ジュニア時代から第一線で活躍を続け、昨年には50㍍背泳ぎで日本高校記録を樹立。並外れたスプリント能力を武器とし、スタートからの飛び出しは国内トップクラスを誇る。「夏の大舞台は得意」と自信をのぞかせ、その視線はすでにインカレ表彰台を見据えている。

悲願の表彰台頂点へ

全身全霊を込めて
「チームを引っ張る」
新開
男子主将

観客席に向かって手を上げる新開
〈神田夏希　撮影〉

〇…「主将としてチームを引っ張っていけるように頑張りたい」。こう語った新開誠也男子主将（スポ4＝鹿児島情報）は、今年3月に開催された日本代表選考会で100㍍バタフライの自己ベストを大幅に更新し、表彰台まであと一歩のところまで迫った。6月の日本選手権では、自身初となる50、100、200㍍バタフライの3種目に出場すると、全種目で決勝進出を果たし、タフなレース展開でも粘りの泳ぎを見せた。200㍍を専門とする新開だが、短距離種目でも国内最高峰の大会で活躍を見せるなど、調子の良さがうかがえる。しかし、本命の200㍍バタフライでは明大が表彰台を独占する結果となり、「光永翔音（中大3年）や成嶋義徳（明大4年）をはじめとした同世代の活躍が光る中、自分も負けじと頑張りたい」とライバルの台頭に闘志をのぞかせた。

今大会は、表彰台はもちろん優勝圏内に位置する立場となり、早大水泳部主将の集大成として臨むレースとなる。本命種目では、明大勢へのリベンジを果たせるか。最終学年、悲願の表彰台頂点へ、全てを懸けて挑む。

お問い合わせはsousupo.mail@gmail.comまで